

山紫海碧

東村立有銘幼小中学校

幼児2名 児童30名 生徒11名

♪ 山紫に海碧く ♪

発行 校長・園長 古謝治



飛翔

フナウサギバナタ（船を見送る岬） 宮古 伊良部島

友人の誘いがあり、一泊二日の短い日程で30数年ぶりに宮古島を訪れた。現在、宮古島は来間島、池間島、伊良部島と橋で繋がっていて、その中でも伊良部大橋は全長3,540mで、通行料金を徴収しない橋としては日本最長とのこと。4つの島全部を駆け足でまわったが、南の島の美しい風景に今回はゆっくりと旅してみたいと感じた。写真はフナウサギバナタのサシバの展望台。サシバは、タカ目タカ科サシバ属に分類される鳥で、中国北部、朝鮮半島、日本で繁殖し、秋には沖縄・南西諸島を経由して東南アジアやニューギニアで冬を越す渡り鳥。宮古群島や沖縄本島は第4の渡来地になっている。巷では今、カモやガン、白鳥類などの渡りの冬鳥およびそれらを補食する猛禽類が高病原性鳥インフルエンザのリスク種として名前があがっているが、一日も早く終焉し、養鶏場の「ニワトリ何万羽を殺処分」というという事態がなくなってほしい。

有銘校の子ども達にとっては、この一年が力強く大空に羽ばたくサシバのように素晴らしい一年になりますように！



新年明けまして

おめでどうございませす



校長 古謝治

平成二十九年 酉年 新年明けましておめでとう
ございます。

今日、一月六日からの三学期のスタートは、年末年始をそれぞれの家庭でゆっくり過ごした子どもたちが元氣いっぱい、いい顔で登校してくれました。なによりもうれしいことです。

「一年の計は元旦にあり」と言われるように、子どもたち一人一人がそれぞれの目標をもって新しい年をスタートしてほしいものです。

その実現のためには、子どもたち一人一人に確かな学力を定着させるべく、「わかる授業」をめざし「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」「学校が楽しい」と言う気持ちと味わわせることが大切です。

また、保護者からの「学校や担任への建設的なご意見やご要望」が確実に学校まで伝わることも極めて重要になります。

学校・保護者・地域とのより一層の相互連携で子どもたちをキラキラと輝かせ、一人一人の「夢実現」に向け、共に知恵を出し合い、共に汗を流していきましょう。

三学期も全職員一丸となって、「**すべては有銘っ子のために!**」を合い言葉に全力で取り組んで参ります。どうかご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

ご家庭におかれましては、この一年がほのぼのと幸せな年になりますように！



東村立有銘中学校第70代生徒会役員の認証式が行われました。全生徒数11人と極少人数の在籍で一人何役もこなす中、旧役員を中心に有銘小中学校をリードしてくれた頼もしい中学生です。今年度で閉校となる中学校ですが、残り三ヶ月よろしくお願ひします。



平成28年度 三学期始業式代表あいさつ



児童会代表
又吉瑞樹

新年明けましておめでとうございます。みなさん、お正月はどのように過ごしましたか。僕はお年玉をもらったり、家族でお宮参りに行ったりして楽しいお正月でした。今日から三学期が始まります。三学期の大きな行事は4つあります。1月には、ハーフマイルマラソンがあります。自分が立てた目標のタイムに近い時間になるように走りましょう。また、6年生は山形県八幡町訪問があります。沖縄と山形の違いを知り、楽しんでいきたいです。2月には、有銘中学校の閉校式典があります。今年度で中学校がなくなって淋しくなりますが、先輩方が築いてきた歴史や伝統を忘れないような式にしたいです。53日間の3学期、たくさんの行事がありますが、みんなで協力して楽しい学校生活を送りましょう。

みなさん、あけましておめでとうございます。今年から、酉年になりました。僕の弟は酉年なので、お年玉をたくさんもらっていました。うらやましかったです。みなさんは、たくさんもらうことができましたか。さて、ぼくたち中学生は、新生徒会長が掲げた、「委員会や朝の活動に積極的に取り組む学校」「プラスに考えお互いを高め合える協力的な学校」「お互いの時間をシェアできる学校」という3つの公約を実現できるように短い期間ですが、みんなで協力していきたいです。また、小中一緒の卒業式としては最後の卒業生になるので、今までにない卒業式にしていきたいです。最後に、有銘幼小中ラストの学期なのでみんなが元気に登校して、明るく楽しい学校生活が送れるようにしていきましょう。



生徒会代表
山城亜倫

と(酉)の話あれこれ

【とりに関する慣用句、ことわざ等】

- 「一石二鳥(いっせきにちょう)」→ 一つのことをして、二つ以上の利益を得ることのたとえ。
- 「梅に鶯(うめにうぐいす)」→ 取り合わせのよい二つのもの、よく似合って調和する二つのもののたとえ。
- 「立つ鳥跡を濁さず(たつとりあとをにごさず)」→ 立ち去る者は、見苦しくないようきれいに始末をしていくべきという戒め。また、引き際は美しくあるべきだということ。
- 「比翼の鳥(ひよくのとり)」→ 夫婦・男女間の情愛の、深く仲むつまじいことのたとえ。
- 「鶴の一声(つるのひとこえ)」→ 大勢で議論しているときに、否応なしに従わせる有力者・権威者の一言。
- 「鶴は千年、亀は万年(つるはせんねんかめはまんねん)」→ 長寿や縁起を祝うときのことば。
- 「飛ぶ鳥を落とす勢い(とぶとりをおとすいきおい)」→ 威勢・権勢がきわめて盛んなさま。
- 「能ある鷹は爪を隠す(のうあるたかのはつめをかくす)」→ 才能や実力のある者は、軽々しくそれを見せつけるようなことはしないというたとえ。
- 「鳩が豆鉄砲を食ったよう(はとがまめでっぽうをくったよう)」→ 突然の出来事に驚いて、目を丸くしているさま。
- 「鶯の契り(えんおうのちぎり)」→ オシドリは雌雄がいつも一緒にいることから、夫婦仲むつまじいことのたとえ。「鶯」は、雄の「鶯」は、雌のオシドリのこと。
- 「烏兎匆匆(うとそうそう)」→ 月日の経つのが慌ただしく早いさま。
- 「鴨が葱を背負ってくる(かもがねぎをせおってくる)」→ うまいことが重なり、ますます好都合であることのたとえ。

この他にも「鳥」が登場する慣用句やことわざはたくさんあるが、比較的良い意味にとらえられることが多いような気がする。干支でいう「酉」は、人に時を報せる動物で、「とり」は「とりこむ」と言われ、商売などでは縁起の良い干支であることや「親切で世話好き」なことが酉の干支の特徴であるとのこと。

2017年酉年がスタートしたが、学校は卒業式や修了式が間近な年度末。中学校は、閉校式典が目前に迫っている。いろいろな場面で「立つ鳥跡を濁さず」の教えのようであってほしい。